

COVID-19 等のストレス時のリテール市場におけるコンダクト問題への 規制当局の対応に関する IOSCO の支援の試み

証券監督者国際機構(IOSCO)代表理事会は、現在の COVID-19 パンデミック等のストレス時に引き起こされるリテール市場のコンダクト問題への規制当局の対応を支援する報告書を公表した。投資家保護と証券市場の公正性に対する信頼の強化は、IOSCO にとっての基本的な目的である。

本報告書は COVID-19 のパンデミックの間、金融サービス業界において広く生じたリテール投資家に対するミスコンダクトのリスクを調査し、この前例のない困難な環境への当局の対応を支援するための施策を提示している。

IOSCO のリテール市場コンダクトタスクフォース(Retail Market Conduct Task Force, RMCTF)によって作成された本報告書は IOSCO メンバーの経験に基づく予備的発見と考察を共有するとともに、ストレス時の潜在的なミスコンダクトが増えるきっかけとなるような、業者とリテール投資家の振る舞いに影響を与える共通の要素を特定している。本報告書は IOSCO メンバーから提供されたケーススタディを引用しつつ、これらのリスクを軽減するためにメンバーが用いた施策を説明するとともに、メンバーの経験から得られた教訓を導き出している。

本報告書は、COVID-19 の危機が業者やリテール投資家の振る舞いにどのように影響を与えたのかについて説明している。IOSCO の調査結果によると、2020 年3~4月の間の極端な価格のボラティリティの高まりと業者の収益性における COVID-19 のプレッシャーの高まりによって、リスクの高い商品の提供の増加とリテール投資家のそのような商品への流入が生じた可能性があることが示されている。COVID-19 の経験はまた、リテール投資家の脆弱性は様々な形態をとること、及び脆弱な投資家はマーケットのストレス時において経済的に搾取されやすいことを明らかに示している。

IOSCO の調査結果は、リテール投資家に対するミスコンダクトは、無登録業者による詐欺的または略奪的な行為といった悪質な例から、登録業者による不注意によって引き起こされたミスコンダクトまで幅があることを示している。ストレス時に増加する可能性のある有害な行為の典型例としては、不適切販売、不正表示、誤解を招く開示や投資助言が挙げられる。

ケーススタディの検討に基づき、IOSCO は COVID-19 のパンデミックによって生じた課題に対して、規制当局がとることのできる数々の施策を提案している。これらの施策には以下が含まれる：

- 投資家の行動と、脆弱な投資家をターゲットとした募集の積極的なモニタリング
- 潜在的なミスコンダクトの存在を示唆する可能性がある業者の挙動に対する監督上の調査
- ストレス時における規制上のコミュニケーション
- 平常への回帰におけるモニタリングと効果的な法執行の措置

- ストレス時における経験を活用した、規制要件と規制へのアプローチの強化
- クロスボーダーの協力と規制上の協調
- 在宅勤務やソーシャルディスタンスによって出現したリスクへの対処

リテール市場コンダクトタスクフォースは、本報告書や分野横断的なインプリケーションを有する他の国際機関における主要な教訓を踏まえつつ、規制当局を対象としたリテール市場のコンダクト問題に対処するためのガイダンス作成の作業を進める予定である。

(Note to the Editor は省略)

(以 上)